



本来なら廃棄される、製品の原料が入っていた米袋は、無償提供され、地域おこし協力隊の活動などでエコバッグに生まれ変わっています

広報 おおづ 2021 3

発行・編集 大津市 総務課 大津市大津1-233 番地  
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大津1-233 番地  
TEL.096(293) 3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>  
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物性インクを使っています。

UD FONT  
見やすくて読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

## 大事なものは無理せず 協力し合える関係



なかむら かずひろ  
中村 和弘さん (引水)

平成28年に熊本を襲った地震を教訓に一つの商品が生まれた。今回は、開発者の合資会社中村製粉中村和弘さんをクローズアップする。

100年以上の歴史を持つ中村製粉は、町の銘菓銅銭糖の原料である落雁粉や団子粉などを中心に製造してきた。4代目の中村さんは、先代たちからの伝統を受け継ぎながら、時代に合わせた商品の開発にも取り組んでいる。

その代表が全国的にも類を見ない、水だけでも作れる離乳食である。開発のきっかけは熊本地震。被災時に少しでも自分にできることをと避難所に自社製品を持ち込んだ際に「離乳食が足りない」という声を聞いた。今まで災害時の備蓄品として課題があった離乳食。全体から見ると必要な人は限られていても、「必要な人はいる。誰も取りこぼしたくない」と崇城大学との共同開発に踏み切る。最新の技術や専門家の意見もあり、水を加えるだけでも食べられる離乳食が完成した。こだわりのグルテンフリーにしたのは、アレルギーがある子ども周りの子と同じものを食べられるようにという思いが込められている。水だけでも作れる離乳食は、災害時以外にも「これなら簡単に作れるかも」と育児の負担軽減化にも活用してもらいたい」と中村さん。自身も子育ての経験がある親として、世の中のお父さん、お母さんをサポートする。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、落雁粉など事業者向けの商品以外にも、離乳食や健康食品などの家庭向けの商品を開発することで活路を見出した。「新商品の開発は決して1人ではできません。生産から製造までみんなで協力し、またそれぞれが無理をしていないことが大切です」と語る中村さん。販売できない規格外の地元農産物を利用するなど、双方のメリットを考えている。中村さんが大事にしている言葉が「E.T.W.A.S. N.E.U.E.S.」。ドイツ語で「何か新しいこと見つけたを意味するこの言葉は、まさに中村さんを表しているようだ。次は介護食を作ってみたい」と話す中村さんは、すでに新しいことを見つけたようだ。

## こゝろの声

▼大津保育園での豆まきを取材した際に、2歳くらいの子は鬼の登場に泣き出してしまいう子もいて可愛らしい姿を見ることができました。ただ、5歳ともなるとほとんど恐れることなく、鬼に思いつきり豆を投げつけていて頼もしさも感じました

▼昭和園に新しい遊具が設置されました。すべり台などがついた大型の遊具に子どもたちも無我夢中でした。まだ行ったことがないご家族は、ぜひ遊んでみてください。(曉)

## からいもくん便り

大津町総合情報メール

登録方法: ozutown@gw.ansin-anzen.jp に空メールを送信してください (スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。



## 大津町公式アカウント

友だち追加の方法  
①LINEの友だち追加の画面から「@ozutown」で検索する。  
②次のバーコードを読み込む。



## 今月のみどころ

家入勲町長が退任  
新町長・町議、誕生  
大津町議会議員一般選挙選挙結果



分別ルールを守って、ごみを削減  
ごみを資源にするための第一歩

## 今月の表紙

昭和園のリニューアルされた遊具で遊ぶ子どもたち。新しく設置された遊具に我先にと登り、寒さに負けず元気いっぱい遊んでいました。新しい遊具は全部で5種類あります。ぜひ遊びに来てください。

